

# 橋本市などの3病院 がん治療連携

2023-07-09 (日) 18:16

がん治療のひとつ、免疫療法で投与されるICI・免疫チェックポイント阻害薬による副作用に素早く対応できるよう、橋本市とかつらぎ町にある3つの病院がこのほど、県内では初めてとなる連携チームを発足させました。

「伊都橋本医療圏免疫療法サポートチーム」を立ち上げたのは、橋本市の橋本市民病院と医療法人南労会紀和病院、かつらぎ町の県立医大附属病院紀北分院の3つの病院で、この日、橋本市民病院で関係者が記者会見を開き発表しました。チームは、がん治療のひとつ、免疫療法で投与されるICI・免疫チェックポイント阻害薬による副作用に連携して取り組もうと、**紀和病院の医師が呼びかけ発足**したものです。チームは、それぞれの病院の専門診療科の医師や看護師、薬剤師などで構成され、患者の情報を共有するとともに共通の対応マニュアルの整備などを進め、がん免疫療法による副作用の早期発見と重症化予防を実現したいとしています。また、ICI・免疫チェックポイント阻害薬の投与歴が分かるように、お薬手帳に共通のシールを貼る取り組みも行っています。**連携を呼びかけた紀和病院の梅村定司医師**は、「今後、さらに連携を深めて、患者さんが治療に専念できる環境づくりをしていきたい」と話していました。(テレビ和歌山ホームページより転載)



## 免疫療法で3病院連携

### 垣根越えチーム 副作用、重症化防ぐ

県内初

がん治療で取り入れられている免疫チェックポイント阻害薬(ICI)やその副作用などについて知識を深めるため、橋本市とかつらぎ町の3病院が23日、病院の垣根を越えて連携するチームを発足させたと発表した。この分野で複数の病院が連携するのは県内で初めてという。

チームは、橋本市民病院(橋本市)、医療法人南労会紀和病院

(同)、県立医科大付属病院紀北分院(かつらぎ町)による「伊都橋本医療圏免疫療法サポートチーム」(呼称・アイアイサポートチーム)。紀和病院の医師が副作用に対応して治療するための連携を2病院に呼び掛け、6月1日に発足した。

がん細胞は人の免疫機能にブレーキをかけて増殖していくが、ICIはブレーキを解除し、免疫機能を再び活性化することで、がん

細胞を攻撃できるようにする仕組み。一方で、免疫が活発に働いたため、大腸炎や腎障害など

どの副作用が起きる可能性もある。チームでは、さまざまな専門診療科の医師や看護師、薬剤師らが

本日、別刷で

**教育特集**

があります。

広告のお申込は  
 橋和歌山毎日広告社 TEL.073(423)9291

連携し、副作用を早期に見出し、重症化を防ぐなどの狙いがあるという。ICIの投与歴が分かるように、「お薬手帳」に共通の「ICIシール」を貼る取り組みもしている。副作用に関する知識を習得する勉強会開催などをしていくという。

この日、3病院の医師が記者会見し、チーム長の駿田直俊・橋本市民病院病院長は「取り組みを進めて、住民の皆さんの安心につなげていきたい。ネットワークを他の病院にも広げていきたい」と話した。

【藤原弘】